

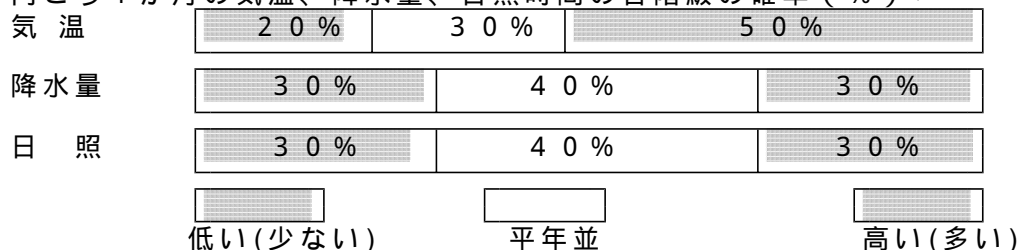
# 平成 2 2 年度 病害虫発生予察情報 発生予報第 2 号 ( 5 月 )

平成 2 2 年 4 月 3 0 日  
島 根 県

予報の概要			
区分	農作物名	病害虫名	予想発生量
普通作物	ムギ	さび病類	平年並
		赤かび病	平年並
		うどんこ病	やや少ない
果樹	イネ	ヒメトビウンカ	平年並
		ニカメイチュウ	少ない
		イネミズゾウムシ	やや多い
		黒斑病	平年並
		黒星病	やや多い
野菜	タマネギ	シンクイムシ類	やや多い
		ハマキムシ類	平年並
		ハダニ類	平年並
		灰色かび病	多い
		アザミマ	平年並
野菜	イチゴ	トリフ属菌による葉枯れ	平年並
		べと病	やや多い～多い
		腐敗病・軟腐病	やや少ない
野菜	イチゴ	灰色かび病	やや多い
		アブラムシ類	少ない

タマネギべと病注意報発令中 ( 4 月 5 日発表 )

中国地方1か月予報 ( 5 月 1 日 ~ 5 月 3 0 日 ・ 広島地方気象台 4 月 3 0 日発表 )  
< 向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 ( % ) >



A . 普通作物

1 ) ムギ

( 1 ) さび病類 ( 小 さび病、赤 さび病 )

予報内容 県内全域  
発生地方 平年並  
発生量

予報の根拠

4 月 26 日 現在、巡回調査地点において発生は確認されておらず、発生量はほぼ平年並みである。  
向こう 1 か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

( 2 ) 赤かび病

予報内容 県内全域  
発生地方 平年並  
発生量

予報の根拠

ムギの生育は平年に比べてやや遅い。  
4 月 26 日 現在、巡回調査地点において発生は確認されておらず、発生量は平年並みである。  
向こう 1 か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

( 3 ) うどんこ病

予報内容 県内全域  
発生地方

発生量 やや少ない  
 4月26日現在、巡回調査地点において発生は確認されておらず、発生量は平年  
 に比べてやや少ない。  
 向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

2) イネ  
 (1) メトビウンカ

予報発生地 方 県内全域  
 予報発生量 根 平年並

予報の根拠 4月第6半旬まで認められない。  
 予報の根拠 4月中旬のすくい取り調査では、捕獲数は0.15頭/20回振(昨年同期1.52頭)、  
 予報の根拠 4月第6半旬まで認められない。  
 予報の根拠 発生圃場率は10.1%(昨年同期25.6%)で発生量は昨年に比べて少ない。  
 予報の根拠 向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) ニカメイチュウ(第1世代)

予報発生地 方 県内全域  
 予報発生量 根 少ない

予報の根拠 前年の第2世代成虫発生量は平年比1%で、越冬量は少ないと考えられる。  
 予報の根拠 予報の根拠 1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(3) イネ  
 予報発生地 方 県内全域  
 予報発生量 根 やや多い

予報の根拠 前年の新成虫の誘殺数は平年に比べてやや多く(平年比165%)、越冬成虫量  
 予報の根拠 予報の根拠 1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 予報発生地 方 県内「二十世紀」栽培地帯  
 予報発生量 根 平年並

予報の根拠 4月26日、県予察圃場で初発を確認した。  
 予報の根拠 4月26日の巡回調査では発病を確認していない。  
 予報の根拠 向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) 予報発生地 方 県内ナシ栽培地帯  
 予報発生量 根 やや多い

予報の根拠 4月26日の巡回調査では、葉での発病は確認していないが、9圃場中3圃場で  
 予報の根拠 幼果での発病が散見された。  
 予報の根拠 向こう1か月の気象は本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

(3) 予報発生地 方 県内ナシ栽培地帯  
 予報発生量 根 平年並  
 予報発生量 根 やや多い

予報の根拠 初飛来日は4月11日で平年並みである。  
 予報の根拠 前年のナシヒメシンクイ第3世代成虫の誘殺数はやや多く、越冬量はやや多い  
 予報の根拠 と考えられる。ラップ(安来市)でのナシヒメシンクイの誘殺数はやや多い。  
 予報の根拠 フェロモントラップ(出雲市)でのハマキムシ類の誘殺数は平年並みである。  
 予報の根拠 向こう1か月の気象は本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

(4) 予報発生地 方 県内ナシ栽培地帯  
 予報発生量 根 やや遅い  
 予報発生量 根 平年並

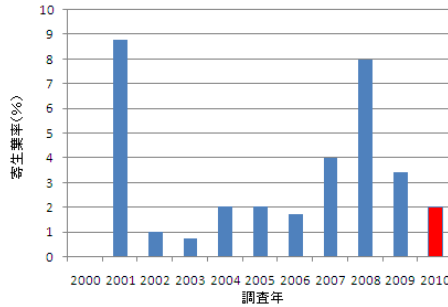
予報の根拠 初飛来日は4月15日でやや遅い。  
 予報の根拠 フェロモントラップ(出雲市)でのハマキムシ類の誘殺数は平年並みである。

向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(5) ハダニ類  
予報内容  
発生地帯  
発生量  
予報の根拠

県内ナシ栽培地帯  
平年並

トラップ調査ではカンザワハダニの越冬量はやや少ない。  
4月下旬の巡回調査(安来市)では寄生花そう率は2.0%(平年3.2%)と平年並みである。主要種はクワオオハダニである。  
向こう1か月の気象は本種の発生にやや助長的である。

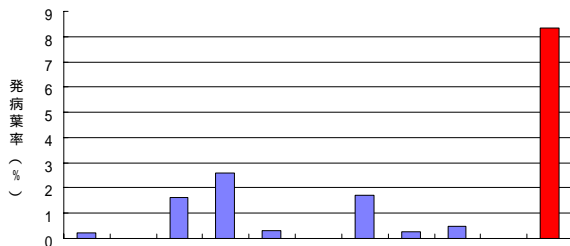


ナシにおけるハダニ類の寄生率の推移

3) カキ  
(1) 灰かび病  
予報内容  
発生地帯  
発生量  
予報の根拠

県内カキ栽培地帯  
多い

4月27日の巡回調査では発病葉率8.3%(平年0.7%)で平年と比べて多い。  
向こう1か月の気象は本病の発生を特に抑制する要因とはならない。



2000年2001年2002年2003年2004年2005年2006年2007年2008年2009年2010年

(2) カキクダアザミウマ  
予報内容  
発生地帯  
発生時期  
発生量  
予報の根拠

県内カキ栽培地帯  
平年並  
平年並

過去10か年のカキ灰色かび病の発生状況(4月下旬)  
4月下旬までに黄色粘着トラップで越冬成虫の誘殺は認められない。  
5月1日の巡回調査では巻葉被害が認められない。  
向こう1か月の気象は気温は低く、降水量は平年並みと予想されており、本種の発生を特に抑制する要因とはならない。

C. 野菜  
(1) タマゴチ  
(1) ボトチ  
予報内容  
発生地帯  
発生量  
予報の根拠

ネトリチス属菌による葉枯れ

県内全域  
平年並

巡回調査地点における4月下旬の発生量は、発生圃場率13.3%(平年11.3%)、  
発病株率0.1%(平年0.3%)とほぼ平年並みである。  
向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

(2) べと病  
予報内容 発生地方 県内全域  
予報発生量 やや多い～多い  
予報の根拠 注意報第1号 参照

(3) 腐敗病、軟腐病

予報内容 発生地方 県内全域  
予報発生量 やや少ない  
予報の根拠

巡回調査地点における4月下旬の発生量は、発生圃場率23.3%（平成64.1%）、  
発病株率0.4%（平成1.6%）で平成に比べてやや少ない。

向こう1か月の気象は本病の発生を特に助長する要因とはならない。

2) イチゴ  
(1) 灰色かび病

予報内容 発生地方 県内全域  
予報発生量 やや多い  
予報の根拠

巡回調査地点における4月下旬の発生量は、発病葉率1.0%（平成0.2%）、  
発病果率0.8%（平成0.5%）で平成に比べてやや多い。

向こう1か月の気象は本病の発生を特に抑制する要因とはならない。

(2) アブラムシ類

予報内容 発生地方 県内全域  
予報発生量 少ない  
予報の根拠

4月下旬の調査では、発生圃場率は0%（平成21.0%）、寄生株率は0%（平成3.1%）  
で発生量は少ない。

向こう1か月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

#### 【参考となる事項】

最新の農薬登録状況

独立行政法人 農林水産消費安全技術センターホームページには、農薬の登録や失効に  
関する情報、農薬登録情報検索システムなどが掲載されています。  
農林水産消費安全技術センターのアドレスは <http://www.acis.famic.go.jp/>

#### 農薬の安全使用の徹底を！

- ・ 農薬の使用基準（適用作物、使用量又は濃度、使用時期、総使用回数）を遵守する。
- ・ 防除履歴（使用日時と場所、作物名、農薬の種類と量）を記帳する。
- ・ 農薬散布時には周辺作物に飛散（ドリフト）しないように注意する。
- ・ 水田で使用する農薬の止水期間を守る。
- ・ 有効期限切れ農薬は使用しない。
- ・ 散布後は散布器具の洗浄を徹底し、空き容器は正しく処理する。
- ・ 病害虫の発生状況を把握し、必要最小限の農薬使用に努める。

#### 島根県病害虫防除所

（島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫グループ）

〒693-0035 出雲市芦渡町2440

TEL 0853-22-6772

FAX 0853-24-3342

e-mail nougi@pref.shimane.lg.jp